

大塚だより

調布大塚小学校

平成二十三年度の学校評価をむかえて

副校長 東 みどり

先日の学校公開には保護者四百一名、地域の方二十七名においでいただき、ありがとうございました。当日は道徳授業地区公開講座も合わせて行い、全学級で道徳の授業を参観していただきました。午後の講演会では、「規範意識を高める子どもの育て方」と題し、NPO 大田家庭教育研究所長 田島身衣子先生より、「自身の子育てのエピソードを交えながら、豊かな心情を育むために親としてのかかわり方をお話いただきました。教員を含め約五十名の参加者があり、「とても身近なテーマで興味深く聞かせていただきました。」との感想も寄せられました。

また、今回の学校公開では、授業を参観された保護者・地域の皆様に五項目の評価をお願いしました。数値での評価の他に、「町たんけんをした時の発表では、子どもたちがよく町内のいろいろな場所で観察したり、調べたりととてもわかりやすく、こちらも勉強になりました。」「子どもの目線に立ちながら規律をもった授業は安心してお任せできると感じました。」等々、子どもたちの頑張りや教師の努力などの評価もいただきました。課題については学校として検討し、解決策や考えを先月末に配布しましたプリントにてお知らせしました。

さて、十二月は、毎年実施している「学校に対する評価」をしていただく時期です。学校の取り組み内容、方法、姿勢や効果などについて評価していただき、本



地域教育連絡協議会 23.11.5
3回目のこの日は、地域と連携したキャリア教育について意見交換しました。

は、良くも悪くも「学校は変わらないのですね。」という声をよく聞きました。しかし、今は子どもの実態や保護者・地域の願いに対応した取り組みが学校に求められています。文部科学省の『学校評価ガイドライン』のリーフレットには、「学校評価の意義について」、「教育の質の保証・向上」、「学校運営の改善」、「信頼される開かれた学校づくり」のために必要とされています。

また、学校評価のメリットとして、「教育活動の改善」、「教職員の意識改革」、「保護者や地域住民の学校への協力」、「教育委員会による支援の充実」などがあげられています。学校においては、保護者の皆様からいただいた評価を改善ための基礎資料として改善案を作成し、ていねいに保護者・地域の皆様に説明すること、取り組みを迅速に実行に移し、効果を検証して必要に応じて修正することが大切だと考えています。

本校が築いてきたよき伝統と校風を受け継いでいくと共に、新しい時代に活躍する子どもたちの「生きる力」を育むために、授業改善や校務運営の効率化に務めていきたいと思えます。そのためには、お一人でも多くの保護者のご意見をいただきたいと願っております。十二月上旬に、質問紙を全児童分封筒に入れ配布いたします。複数のお子様がいらっしゃる方はお一人お一人の学校評価票を提出してください。師走のあわただしい時期ですが、どうぞよろしく願います。

校の教育について改善・工夫をしていく資料として活用させていただきます。

かつて

十一月の行事予定

一日(木)	学芸会前日準備(五校時まで)	×
二日(金)	学芸会一日目・児童鑑賞日	×
三日(土)	学芸会二日目・保護者鑑賞日	×
四日(日)	振替休業日	
五日(月)	体育館片付け 避難訓練	
六日(火)	英語活動	
七日(水)	保護者会(三・四年)	
八日(木)	保護者会(一・二年) 安全指導	
九日(金)	読み聞かせ	
十一日(日)	委員会活動	
十二日(月)	保護者会(五・六年)	
十三日(火)	英語活動	
十四日(水)	読み聞かせ	
十六日(金)	給食終	
十八日(日)	天皇誕生日	
二十一日(水)	終業式	
二十二日(木)	天皇誕生日	
二十三日(金)	冬季休業日始	
二十六日(月)		
一月十日(火)	始業式・開校記念式	

大田区立小・中学校人権啓発作品展

☆12月1日(木)～8日(木)
午前9時～午後6時
(1日は午後1時から、8日は午後3時まで。)

☆場所 池上会館
1階展示ホール

学芸会

「ペロリンガーがでたぞ」一年担任 中澤 勇輝

一年生は「ペロリンガーがでたぞ」を演じます。涙を舐めるおぼけ、ペロリンガー。ペロリンガーにとって、泣き虫一年生の教室はおいしい涙がいっぱいある宝箱。しかし、二年生に近づくにつれて、一年生の教室には大好物の涙が減ってきてしまう。

子どもたちは小さい体ながら、一所懸命に大きな声を出して練習に励んでいます。特にペロリンガーは、かわいらしく演じています。一年生の成長をかわいいた涙を舐めるお化け、ペロリンガーと共に描いた劇。「ペロリンガーがでたぞ」、是非お楽しみください。

「おぼけじぞう」二年担任 田中 裕理子

むかし、むかし、ある村に十六地蔵が立っていました。そこに、いたずらギツネがやってきて、いろいろないたずらをします。こまった村人たちは、どうするのでしょうか。見てのお楽しみです。笑って楽しめる愉快な劇です。

二年生にとって初めての学芸会。みんな、役になりきって一生懸命に練習しました。劇のポイントは、「タイミンク」です。タイミンクがうまく合っていると、おかしさを感じられます。タイミンクを合わせるには、子どもたちが気持ちを一つにしてやらないと合いません。お互いに声を掛け合ったり、話し合ったりしながら練習に取り組みました。息を合わせ、三十六人みんなで作りあげた劇です。元気がいっぱい二年生の姿を楽しみにしてください。

「たぬきばやし」二年担任 後藤 佳樹

「たぬきばやし」は、たぬきが楽しく暮らしていた「しようじよう寺」に、新しくおしよが来るのですが、たぬきたちがあの手この手をつかっ、おしよを追いつけようとする劇です。ステージの上でも、おしよやたぬきなどの役になりきる子ども他にも、コール隊として劇の進行や盛り上げるのに欠かせない子どももいます。

子どもたちには台詞に「色」をつけるようにいつも話しています。白や黒ではなく、ピンク、レモン色や水色などカラフルに。感情表現豊かな言動をしてくれることを期待しています。

一人一人が一所懸命、演技を考え、自分たちの力でつくりあげました。三年生の元気あふれる劇「たぬきばやし」をご覧ください。

「寿限無」四年担任 今井 光代

寿限無 寿限無 五劫のすり切れ 海砂利水魚の水行末、雲来末、風来末、食う寝るところに、住むところ やぶらこうじのぶらこうじ パイポパイポパイのシューリンガン シューリンガンのグーリンダイグーリンダイのポンポコピーのポンポコナーの長久命の長助

これは呪文ではありません。人の名前なのです。こんなに長いと縮めて、「寿限無ちゃん」でもいいようなものですが、そこは落語ですから、最初から終わりまでちゃんと繰り返さなければいけないことになっておられます。もちろん、聞く方も最初から最後までちゃんと聞いてくれることになっています。四年生の劇が終わるころには、お客さん全員が「寿限無」の名前を最初から最後まで言えるようになっていて、元気が四年生がそれぞれの役になりきって演じます。お楽しみに……!

「地球SOS！環境探検隊」五年担任 佐藤裕子

百年後の地球は、空気が汚れ、オゾンホールも広がり、強い酸性雨が降る危険な星になっています。環境破壊の進んだ地球では、ガスマスクが無くては生活することもできません。

環境探検隊は、美しい地球を取り戻す手がかりを求め、火星、月、海底、ダイヤモンド新星に向かって地球を出発します。

探検隊は、四つの星で地球を救う方法を見つけることができるのでしょうか……。

五年生は自分たちで演出に工夫を凝らし、観る人が楽しめるように、自分たちの思いが伝わるように、互いにアドバイスしたり、励まし合ったりして練習に取り組んでいます。一つの劇を作り上げながら、自分の役割を果たし、友達と助け合って互いの絆を深め、成長して欲しいと思います。

「走れメロス」六年担任 本多 裕太

六年生は、学芸会委員会を中心に演目を考え、全員に提案し「走れメロス」を演じることになりました。この演目は現六年生が二年生の頃初めて当時の六年生の演技を見てとても感動し、子どもたちに強く印象と憧れが残った演目だったそうです。子どもたちは、調布大塚の最高学年らしく、そして、自分たちのカラーを出した「走れメロス」にしたいと、毎日練習に取り組んでいます。

また、六年生は学芸会の係も行います。演目の道具の準備や照明、司会進行などにも挑戦します。最後の学芸会です。子どもたちの頑張る姿を見ていただきたいと思います。

